

第12回全国菜の花サミットinふくしまサミット宣言



私たちは福島が大好きです。福島はステキなところです。

しかし、3月11日に東日本を襲った大地震、津波、そして福島第一原子力発電所事故が私たちからすべてを奪いました。一年が経った今もなお、放射能による直接的な生活環境の汚染と、それに起因する風評被害により、復興に向けた確かな展望が見いだせていません。

私たちには、安全で美しい福島の郷土を、大地を、歴史と文化を未来に残し伝えなければならない責務があります。そして、私たちは福島に生活することに誇りを持ち、これからもたくましく生きていきたいのです。

私たちは、この「3.11」を教訓にし、これまでの「他人から与えられたエネルギーに頼る社会」から「地域が自立的にエネルギーを生み出し、地域を創造していく社会」を目指し、勇気と決意を持ってそのための一歩を踏み出していかなければなりません。また、放射能や津波による塩害から大地を守り、安全な「食」を確保しつづけなければなりません。そして、「食とエネルギー」という社会の持続性を生み出す力を持つ農村と農業の復興を進めなければなりません。

このような思いを胸に、安全な「食」と「エネルギーの地域自立」を全国の皆さんや次の世代に伝えることを目的として、全国菜の花サミットは福島県須賀川市で開催されました。サミットでは、ドイツにおける「地域が自立的にエネルギーを生産し消費する社会のあり方」が紹介され、また「放射能や塩害を乗り越えていく菜の花プロジェクトの取り組み」が報告されました。

菜の花プロジェクトが進める資源循環型社会づくりの取り組みは、東日本大

震災を契機に、その意味を一層深くしています。未来の世代が希望の持てる日本の再生をこの福島からはじめるため、応援して下さる全国の皆さんとともに、次のことから取り組みます。

1. 未来の世代が勇気と希望を持てるビジョンを持ち、新しい日本を作り出すために、福島をはじめとする東日本の再生に取り組みます。
2. 私たちの大地を放射能や塩害から早期に回復させるため、全力を挙げて取り組みます。
3. 農業・農村を持続可能な社会における基盤として再評価し、地域の特徴を活かした食とエネルギーの地産地消の推進に取り組みます。

私たちは国内外の諸活動と連携してこれらの取り組みを拡げていくとともに、地域の自発的・自立的な活動を支える大胆な支援の仕組みづくりを国に要請します。

私たちは、あきらめません。日本の再生をこの福島からはじめましょう。

2012年4月28日 第12回全国菜の花サミット in 福島参加者一同



政務調査第3日目・4月30日

3.11東日本大震災の被災地調査・岩手県・青森県内

平成19年度に政務調査を行った岩手県田野畑村の被災状況と、「自然体験村・たのはた」を訪問し、被災後の活動について調査する。

「自然体験村・たのはた」サッパ船体験乗り場の風景
震災により体験者が激減している状況でした。(19年に宿泊したホテルも被災)



体験ネイチャーセンター



高台にあり被災しなかつた田野畑駅

田野畑駅



田野畑駅を通過しトンネルをでると鉄路が消失している。

集積された
がれきの山





農地の復元作業



震災後の岩手・青森両県内の道の駅・直売所の実態調査

岩手県宮古市道の駅「やまびこ館」



「道の駅」やまびこ館は、一般国道4号、46号、重要幹線道路国道106号沿いにある。地域農産物等活用型総合交流促進施設「やまびこ産直館」として開設し、平成11年4月、駅名を「道の駅」やまびこ館とした。

© やまびこ産直館

地元の生産者が自ら作った農産物等を直接販売する新鮮な野菜や旬の山菜やキ

ノコを売っている。



◎ やまびこ産直館イベント広場

春は山菜まつり、秋はハート 106 やまびこフェスタ／南部木挽全国大会、川井の名物のまいたけまつりなどのビックイベントのほか、民間団体や道の駅主催の小イベントが行われている。

◎ もうもう亭

地元の食材を楽しめる、地元ならではのレストラン。

◎ 郷土食加工販売店舗ヤッホー館

地元の食材を利用してつくったひゅうず、キミ饅頭、がんづきなど昔食べた懐

しい食を味わうことができる。黒豆ソフトクリームもコクのあるアイスで人気のひとつでもある。



青森県野田村道の駅「のだ」





青森県階上町道の駅「はしかみ」



新鮮な海産物や心を込めて育てた野菜・花・採れたての山菜など、海と山の食材を売っている。





階上町特産の「そば」をそば麵工房で実演体験を行っている。



道の駅に並べて、トレーラーハウスの簡易店舗を町が出店者に貸し出して営業させている。



調査結果と成果

震災に見舞われた岩手・青森県内の町村では、震災復興のため山菜や野菜、海産物など地場産品を道の駅で直売に取り組み、一人でも多くの来町者を迎え入れるために、知恵を出し合って取り組んでいた。

特に、青森県階上町の「簡易店舗貸出事業」は、震災以前より取り組んでいる事業で、誰もがいつでも出店しやすい営業環境を整えられていることは、わが町においても、調査研究すべき施策課題であると考察される。